



孔子の学園と『論語』

『論語』とは、孔子の語ったことば（「語」）を、弟子たちが竹簡にノートし、たがいに持ち寄って編集したもの（「論」）とされます。その大半は孔子の学園の記録というべき内容で占められています。孔子や弟子たちの当時、「学ぶ」という行為はどのような意味をもっていたのか、そのような時代背景を念頭に置くと、冒頭の有名な「学びて時に之を習ふ…」ということばも、特別な意味を帯びてきます。近年の研究成果も踏まえつつ、『論語』の世界を覗いてみましょう。

開催日 2017年11月26日(日)

時間 13:00 ~ 14:30

会場 リソル生命の森 フォレストアカデミー
※駐車場に限りがございます。ご来場の際は相乗り又は日本メディカルトレーニングセンターの駐車場をご利用ください。

参加費 無料

定員 30名 ※定員となり次第締め切りとさせていただきます。お早めにお申込みください。

お申込 下記へお電話にてお申込みください。



千葉大学人文科学研究院 教授 **内山直樹** (うちやま なおき)



千葉県生まれ。東京外国語大学中国語学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。二松学舎大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。千葉大学文学部准教授を経て現職。京都大学、神田外語大学等非常勤講師。専門は中国哲学、中国古典文学。著書に『聖と狂—聖人・真人・狂者』（共著、法政大学出版局）、『古書通例—中国文献学入門』（余嘉錫著、共訳、平凡社）等。